【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立富士小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携や授業づくりなどの研究を推進し、一定の成果を得ることができた。しかし、主体的な学び、自分の思いや考えを相手に伝える表現力においては課題も残った。 ・「心の教育」においては、いじめの早期発見・早期対応のため、日頃の見とり、アンケートなどから得られた児童の情報を全職員で共有し、児童は安心して学校生活を送ることができた。また、小中でも話し合いの機会を設け、互いの児童生徒理解が進んだ。 ・早寝早起きなど、望ましい生活習慣の形成に関しては家庭、児童の意識の向上が課題としてみられた。学びの基礎作りとして研究とも絡めながら取り組んでいく必要がある。 ・地域との連携は充実し、様々な体験活動を行うことができた。カリキュラムマネジメントの視点を持ち、教科と体験活動を有機的に結びつけるなど取組の充実と見直しを行っていく必要がある。また、地域情報発信の意味でもHPの充実を図っていかねばならない。

2 学校教育目標	地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎学力の確実な定着と児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上 ② 自他の命を大切に、郷土を愛する心豊かな児童を育てる。（道徳教育・人権教育の充実、小中できめ細やかな児童生徒家庭支援） ③ 心身共に健やかでたくましい児童を育てる。（基本的な生活習慣や学習規律の確立、外遊びの推奨） ④ 地域に信頼される「開かれた学校づくり」の推進。（コミュニティ・スクールの有意義な活用、HP等を活用した地域、保護者への啓発）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示した学校の共通の成果指標を達成した教師90%以上	・全職員で学校共通実践・指標を共有する。 ・長期休業中に学力向上についての校内研修を行う。また、各自の取り組み内容・進捗状況を交流し、促進を図る。	B	・6月の職員研修で学校の共通実践や成果指標を話し合い、共通理解のもと授業を進めることができた。 ・夏期休業中に学力向上対策の研修会を行い、56年生で実施した学力状況調査について分析と対策をたてることができた。	B	・学力向上に関する研修を計画的に行い、共通実践を確認することができた。 ・共通実践はできているものの、児童の学力は全国平均を下回った学年が多く、児童の学力向上対策は必須の課題である。	B	・児童が「わかった。」「できた。」「喜んで言える取組を増やすことで、達成感を持たせ、意欲を高めることが必要である。 ・家庭における学習環境のあり方が気になる。
	○主体的・対話的で深い学びに向けた交流活動の充実と表現力の向上	○「自分の思いや考えを伝えることができた」という児童90%以上、「自分の思いや考えをもち、表現する」ための指導の工夫や授業づくりができたとする教員90%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、各教科で、自分の考えをまとめたり、交流・説明したりする場を意図的に設ける。(なるほどタイム) ・表現の基礎となる音読やスピーチに取り組む。	B	・授業研究会を行い、授業づくりのステップ123をチェックしながら授業研究会を行い、指導の工夫を行っている。 ・ふりかえり活動の際に、キーワードを入れてふりかえりさせることを共通理解し、授業後のふりかえりで全学年取り組むようになっていく。	A	・全担任が授業研究会を行い、授業づくりのステップ123をチェックしながら授業研究会を行うことができた。 ・ふりかえり活動の際に、キーワードを入れてふりかえりさせることを共通理解し、授業後のふりかえりで全学年取り組むようになっていく。引き続きふりかえり活動は行っていきたい。	A	・授業参観では発表の機会を多く取り入れ積極的な授業であると思う。 ・今のように話し合い活動を授業に入れることで、子供たちが主体的に学ぶ授業に力を入れてほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全校児童の「心の教育」に計画的に取り組めたいという教員90%以上 ○「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童90%以上	・全校で「いじめ・いのちを考える日」や人権教室に計画的・組織的に取り組む。 ・道徳の授業づくりや、児童への日々の声かけなど「豊かな心」を育む指導の共通理解を図る。 ・自分や友だちのよさを見つけたら、認めたりできる活動に取り組む。	B	・「いじめ・いのちを考える日」では、毎月子どもの実態に合った放送を心がけ、心のアンケートを実施することができた。 ・「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童が90%以上であり、各教員も「豊かな心」を育むための声掛けができた。 ・全体として良きを見つけた活動はできなかったため、後期は全校で取り組めるよう指示などを工夫する手立てをとる。	A	・6年生を中心に行なう各学期の始業式での「いじめ0の約束」レインボー作戦への取組や年間4回の人権教室により、児童の人権意識を高めることができた。 ・友達の良いところを葉っぱの色紙に書いて、「友達だす木」の木に貼って、人権の木として掲示したことで、友だちに思いやりをもって接することができたという児童が90%以上であった。	A	・子供たち同士のトラブルは必ずあるものであるが、いじめを許さないという学校を目指して、子供たちを育ててほしい。 ・「友達だす木」の取組は素晴らしい。子供同士で認め合い豊かな心を育てることが大切だと思う。 ・コミュニティスクールとして、心の教育についての環境作りを援助したい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童90%以上 ○いじめの早期発見、早期対応のために組織的に取り組めたいという教員90%以上	・毎月の教育相談・生徒指導協議会において、いじめの早期発見の視点からの情報交換を行った。心身のアンケートで見られた問題点などの共有を図ったりする場を設ける。 ・児童一人一人の思いに寄り添う学級経営を工夫して行う。	A	・毎月の心のアンケートにおいて気になることがあれば、すぐに各担任が児童に聞き取りをし、解決・改善を図っている。 ・いじめの早期発見、早期対応ができたために、「何か問題があったときはすぐに報告してほしい」という教員90%以上であった。	A	・各学期に教育相談週間として個別に面談をする時間を設定し、児童の本音を聞き取ることで、子どもの悩みや人間関係などを把握することができた。また、それを学校全体で共有し、学級経営や指導に生かすことができた。 ・軽微ないじめ事案が年間23件であった。すべて早期対応ができ、いじめに対する教員の認識がより高まった。	A	・少人数の学校であるので、子供たち一人ひとりの思いや考えを常にくみ取って、子供の心の変化にすぐに気づけるようにすることが大切である。いじめについても早期発見、早期対応が大切だと思う。 ・不登校傾向児童への具体的な対応策について、市教委への要求等があれば力をかかたい。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意図的に取り組もうとするための教育活動。	◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていて」と回答した児童90%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・児童の実態把握に努め、適切な評価を行う。「ほめる週間」の設定で意識を高める。 ・地域の教育資源や人材等を積極的に活用した「ふるさと学習」を推進し、ふるさと富士町への誇りを高めさせていくとともに、キャリアパスポートの有効な活用を図り、各自の夢をもたせる。	A	・個別の学習物に対して、丁寧に評価をし、良いところを褒めることで、児童のやる気を高めることができ、90パーセント以上の児童が「先生は自分のよいところを認めてくれる」と回答している。 ・全学年とも、富士町についての郷土学習や地域のゲストティーチャーを活用しての学習を実施することができた。また、児童の富士町を誇りに思う気持ちは高く、高学年では、より良い富士町にしたいという夢や希望を発信することができた。	A	・日々の授業や生活の中で子ども一人ひとりを見とり支援したことで、子どもの自己肯定感は高まってきている。 ・どの学年も郷土学習や地域のゲストティーチャーを活用しての学習を計画的に行なったことで90%以上の児童が富士町の良さを実感している。	A	・「学校便り」は学校の様子が詳しく記載されているので子供の学校生活を知る安心材料になっている。 ・どの学年も郷土学習や地域のゲストティーチャーを活用しての学習を計画的に行なったことで90%以上の児童が富士町の良さを実感している。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○21時就寝を目標に、9時間睡眠をとるように意識することができたという児童90%以上	・保健便りや学校・学級だよりを用いた保護者への啓発や、中学部と連携した「すこやか週間」の実践、「生活振り返りカード」の活用により「早寝早起き」の習慣を定着させる。 ・交通安全教室や日頃の指導により安全に対する児童の意識を高める。	B	・今年度は就寝時間を9時30分までに寝て、朝は6時30分までに起きるようにしたため、9時間睡眠ができている児童が増えたが、90%以上には達することができなかった。引き続き、中学部と連携した「すこやか週間」での意識づけや学級指導等を通じて、早寝の推奨を促す。 ・1学期の早い段階での交通安全教室の実施により、児童の交通安全に対する意識を高めることができた。	A	・毎学期のすこやか週間「すこやかチェック」の取組により、ほとんどの児童が朝食をきちんと食べるようになっている。睡眠時間については、9時間睡眠ができている児童もいるが、保護者の意識は高まっている。 ・交通安全教室や日々の交通指導により今年度、児童、職員の交通事故はなく、安全についての意識は、より高まった。	A	・子供たちの睡眠時間はなかなか改善しないようだが、「生活振り返りカード」の取組などで家庭と連携することは大切である。 ・生活習慣はほとんど大事なので、継続して取り組ませてほしい。 ・毎朝の交通指導に感謝。地域も協力したい。
	○運動への意欲向上と体づくりの推進	○「体を動かすことが楽しい」と答える児童90%以上	・体育の授業資料等を教師間で共有し、運動の楽しさに触れられるような授業づくりを工夫する。 ・縦割りグループの活動(なわとび大会)や各学級で県大スポーツチャレンジに取り組むとともに、外遊びを推奨する。	B	・「体を動かすことが楽しい」と答える児童は90%であった。 ・学年を超えてワークシートを共有したり、授業の悩み事を相談したりして体育の授業力向上に努めることができた。 ・3学期に縦割りなわとび大会を予定している。また、スポーツチャレンジの周知を今後行っていく。	B	・下期は「外遊びや運動を進んでほしい」との問いで否定する児童の回答はなく、どの学年も進んで外遊びをしているという結果であった。 ・縦割り班での大縄跳び大会では、どの班も休みに練習をし記録を伸ばすことができた。 ・スポーツチャレンジにどの学年もとりくむことができた。	B	・なかよしタイムの取組は、高学年が中心となって子供たちが自主的に積極的な活動ができるよう工夫が凝らされていて感心した。 ・外遊びをしている子供たちは生き生きしていると感じる。 ・ニュースポーツ用具がスポーツ協会にあるので活用してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・アフターコロナにおいて学校行事に係る時間の見直しを建設的に行う。 ・定時退勤日、マイ定時退勤日の設定とともに掲示物やモニターを活用した意識の向上を図る。 ・年休取得を推進する。(年間14日以上)	A	・行事の見直しや効率的な行事の実施により業務改善が進み、職員の時間外在校等時間は上期の月平均が28.2時間で、規定の上限45時間を大きく下回ることができた。 ・どの職員も計画的に年休を取得し、9月までの年休所得平均が10日であり、良好な状況である。	A	・全職員の意識が高まり、効率よく業務を遂行することが定着している。年間の時間外在校等時間の平均も28時間と法的規定よりも大幅に少なかった。また、年間年休取得も平均14日で、職員がオンオフの切り替えを適切に行ない常に生き生きと協働している姿が見られた。	A	・時間外勤務時間が縮減しているということで安心した。今後も推進してほしい。 ・先生方も心にゆとりをもってほしい。 ・学校が困っていることがあれば、言ってほしい。もっと協力したい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小中連携	○「9年間の学び」を意識した小中連携による児童生徒の育成	○すべての学年において、中学部との交流授業や乗り入れ授業を行う。中学部との連携がとれている肯定的に答える保護者90%以上。 ○教科の指導内容や方法等について、中学部と連携ができたと考えられる割合90%以上	・小中合同協議会の内容を充実させ、効果的な合同研修会を実施する。対話による相互理解・共通理解を図る。 ・児童理解や9年間を見通した学習習慣・規律など、連携についての工夫を図る。	A	・計画的に小中合同協議会を行い、合同でQUTESTの分析などを行い、相互理解・共通理解を図ることができた。 ・6年生は中学部での学習(1日)を通して、中学部の教師から様々な教科を教わるなど小中連携が図られている。	A	・年間6回の小中合同協議会や、合同行事、合同校内研究、合同職員研修の実施により連携のよさも育成ができた。 ・年間、6年生は10日間、5年生は5日間中学校で過ごす日を実施し、高学年では、中学部教師による乗り入れ授業も行うなど、9年間を見通した指導体制が構築できている。	A	・中学部での学習や体育大会など合同行事も、計画的に実施され、9年間を見通した教育活動がされていると感じる。 ・離れてはいるが小中一貫のメリットを生かしている。 ・中学校が目指す生徒の主体性育成のために小学部での取組も充実させる必要がある。
○コミュニティスクール	○学校運営協議会の充実	○保護者及び学校運営協議会委員の学校情報メール加入率100% ○学校HPを見たことがあるという保護者90%以上	・「学校便り」「学校HP」「学校情報メール」の活用及び学校運営協議会や地域学校協働活動推進本部を核とした連携を強化する。 ・保護者や地域への積極的な情報発信・受信を行う。	B	・「学校便り」月1回「学校HP」2週間に1回更新及び随時、「学校情報メール」随時活用し、学校運営協議会や地域学校共同活動推進本部との連携を取ることができている。	A	・学校情報メールの受信困難世帯が1世帯あるが、他は学校情報メール加入率100%であった。今年度も大雨等の対応や感染症対策、行事の周知などメールとHPを活用して適時に情報発信することができ、危機管理にも役立った。保護者の98%が肯定的な評価にもあった。	A	・学校行事等のメール発信は、学校の情報がつかめ助かっている。 ・学校便り等で学校教育の内容がよくわかる。 ・コミュニティスクールとして、校長の意向や課題解決のため職員人事の面で市教委への要望等もしていきたい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の面で小中9年間を見通して、基礎基本の定着をさせ、各教科指導だけでなく、すべての活動で主体的に能動的に活動できる児童の育成を目指す。 ・小中一貫した「心の教育」の充実によりSC.SSW等の専門家や外部機関との連携も密にとりながら、きめ細やかな児童生徒及び家庭支援を行い、いじめ、不登校のない学校を目指す。 ・学校運営協議会の再設置により、小中一貫校富士校としてより有意義なあり方、活用の仕方を検討していく。
----------------	--